

国民の保護に関する業務計画

平成19年3月
(令和8年6月)
阪急観光バス株式会社

目 次

第1章 総則

- 第1節 計画の目的
- 第2節 基本方針

第2章 平素からの備え

- 第1節 活動体制の整備
- 第2節 関係機関との連携
- 第3節 旅客等への情報提供の備え
- 第4節 警報又は避難措置の指示等の伝達体制の整備
- 第5節 管理する施設等に関する備え
- 第6節 運送に関する備え
- 第7節 備蓄
- 第8節 訓練の実施

第3章 武力攻撃事態等への対処

- 第1節 武力攻撃事態等対策本部等への対応
- 第2節 活動体制の確立
- 第3節 安全の確保
- 第4節 関係機関との連携
- 第5節 旅客等への情報提供
- 第6節 警報の伝達
- 第7節 施設の適切な管理及び安全確保
- 第8節 運送の確保
- 第9節 避難・救援に関する支援
- 第10節 安否情報の収集
- 第11節 応急の復旧

第4章 緊急対処事態への対処

- 第1節 活動体制の確立
- 第2節 緊急対処保護措置の実施

第5章 計画の適切な見直し

第1章 総則

第1節 計画の目的

- この計画は、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（平成16年法律第112号。以下「国民保護法」という。）第36条第2項及び第182条第2項の規定に基づき、阪急観光バス株式会社（以下「当社」という。）の業務に係る武力攻撃事態等（武力攻撃事態及び武力攻撃予測事態をいう。以下同じ。）における国民の保護のための措置（以下「国民保護措置」という。）及び緊急対処事態における緊急対処保護措置の的確かつ迅速な実施に資することを目的とする。

第2節 基本方針

- 武力攻撃事態等において、国民保護法その他の法令、国民の保護に関する基本指針（平成17年3月25日閣議決定）、大阪府国民保護計画及びこの計画に基づき、国民の協力を得つつ、他の機関と連携協力し、その業務に関する国民保護措置の的確かつ迅速な実施に万全を期するものとする。
- 国民保護措置の実施に当たっては、次の点に留意するものとする。

（国民に対する情報提供）

- ホームページ等の広報手段を活用して、国民に迅速に国民保護措置に関する情報を提供するよう努めるものとする。

（関係機関との連携の確保）

- 国民保護措置に関し、平素から関係機関との連携体制の整備に努めるものとする。

（国民保護措置の実施に関する自主的判断）

- 国民保護措置を実施するに当たっての実施方法等については、府、市町村等から提供される情報を踏まえ、武力攻撃事態等の状況に即して自主的に判断するものとする。

（安全の確保）

- 国民保護措置の実施に当たっては、府、市町村等の協力を得つつ、当社社員のほか、当社の実施する国民保護措置に従事する者の安全の確保に十分配慮するものとする。

（高齢者、障害者、外国人等への配慮及び国際人道法の的確な実施）

- 国民保護措置の実施に当たっては、高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、外国人等に対する配慮を行うものとする。
- 特殊標章の使用等に当たっては、国際的な武力紛争において適用される国際人道法の的確な実施を確保するものとする。

(大阪府国民保護対策本部長の総合調整)

- 大阪府に国民保護対策本部（以下「府対策本部」という）が設置され、国民保護法第29条第1項の規定に基づき、府対策本部長（大阪府知事）による総合調整が行われた場合には、その結果に基づき、所要の措置を迅速かつ的確に実施するよう努めるものとする。
- 国民保護法第71条第1項の規定に基づき、大阪府知事（以下「府知事」という。）又は大阪府内の市町村長（以下「市町村長」という。）より、避難住民の運送の求めがあったときは、所要の措置を的確かつ迅速に実施するものとする。

第2章 平素からの備え

第1節 活動体制の整備

(情報連絡体制の整備)

(1) 情報収集及び連絡体制の整備

- 管理する施設等の被災の状況、国民保護措置の実施状況、運行状況等の情報を迅速に収集・集約できるよう、連絡網、連絡方法、連絡手順等の必要な事項についてあらかじめ定めるものとする。
- 夜間、休日においても、的確に連絡できる体制の整備に努めるものとする。また、武力攻撃災害により連絡担当者が被害を受けた場合等においても社内の連絡を確実にできるよう、連絡ルートの多重化、連絡担当者の代行の指定など、障害発生時に備えた情報収集・連絡体制の整備に努めるものとする。

(2) 通信体制の整備

- 武力攻撃事態等において、迅速かつ確実な連絡が行えるよう、関係機関との連携に配慮しつつ、必要な通信体制を整備するものとする。
- 通信体制の整備にあたっては、武力攻撃災害により通信手段が被害を受けた場合や停電の場合等においても、確実に通信が行えるよう通信手段の多重化等のバックアップ体制の整備に努めるものとする。
- 平素から国民保護措置に必要な通信設備の点検を定期的実施するものとする。

(緊急参集体制及び活動体制の整備)

- 武力攻撃事態等において、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するための当社における必要な体制を迅速に確立するため、関係社員の緊急参集等についてあらかじめ必要な事項を定め、関係社員に周知するものとする。
- 緊急参集を行う関係社員については、武力攻撃事態等により交通機関が途絶すること等も想定し、複数の参集経路、移動方法を事前に確認しておくものとする。
- 武力攻撃事態等が長期に及んだ場合に備え、交代要員の確保等に関する体制を整備するものとする。
- 防災のための備蓄を活用しつつ、資機材や燃料、食料、飲料水、医薬品等の備蓄又は調達体制の整備等に努めるものとする。

(特殊標章の交付申請等)

- あらかじめ特殊標章等の使用の許可を受けておく必要がある場合には、府知事と調整を行ったうえで、府知事に対して使用の許可の申請を行い、適切に管理を行うものとする。

第2節 関係機関との連携

- 平素から府、市町村、指定（地方）公共機関等の関係機関との間で、国民保護措置の実施における連携体制の整備に努めるものとする。

第3節 旅客等への情報提供の備え

- 武力攻撃事態等において、運行状況等の情報を、当社ホームページ等を活用して、旅客等に対し適時かつ適切に提供できるよう、必要な体制を整備するものとする。
- 情報提供の体制の整備に当たっては、高齢者、障害者、外国人その他の情報伝達に際し配慮を要する者に対しても、情報を伝達できるよう努めるものとする。

第4節 警報又は避難の指示等の伝達体制の整備

- 府知事から警報又は避難の指示の通知を受けた場合において、社内等における警報等の伝達先、連絡方法、連絡手順など必要な事項を定めるものとする。

第5節 管理する施設等に関する備え

- 管理する施設等について、武力攻撃事態等において、避難者及び帰宅者による集中、殺到又は混乱並びに負傷者の発生に備えて、的確かつ迅速な状況判断により、自然災害や事故への対応に準じて適切な旅客誘導を図るための体制の整備に努めるものとする。
- 武力攻撃事態等において、管理する施設及び設備の応急の復旧を行うため、自然災害に対する既存の予防措置を有効に活用しつつ、あらかじめ体制及び資機材を整備するよう努めるものとする。
- 自ら管理する施設が府知事により避難施設に指定された場合には、避難住民の受け入れが適切に行われるよう必要な整備に努めるものとする。

第6節 運送に関する備え

- 府、市町村が、避難住民の運送を実施するための体制の整備を行うに当たっては、連絡先の提供、輸送力及び輸送施設に関する情報の提供、協定の締結など必要な協力を行うよう努めるものとする。
- 武力攻撃事態等発生時に人員の緊急輸送が円滑に実施されるよう、府や市町村と連携しつつ、これらの緊急輸送に関わる実施体制の整備、他の指定（地方）公共機関等との協力体制の構築に努めるものとする。

第7節 備蓄

- 国民保護措置のための備蓄と防災のための備蓄とを相互に兼ねることができるよう、防災のための備蓄の品目、備蓄量、備蓄場所、物資及び資材の供給要請先等の確実な把握等に努めるものとする。
- 武力攻撃事態等が長期にわたった場合においても、国民保護措置の実施に必要な物資及び資材を調達することができるよう、府や市町村、他の事業者等との間で、必要な体制の整備に努めるものとする。

第8節 訓練の実施

- 平素より、的確な国民保護措置の実施が可能となるよう社内における訓練の実施に努めるとともに、府、市町村等が実施する国民保護措置についての訓練へ参加するよう努めるものとする。また、訓練の実施に当たっては、実際の通信機器、輸送施設を使用するなど実践的な訓練となるよう努めるものとする。
- 国民保護措置と防災のための措置について共通の措置がある場合には、必要に応じ、国民保護措置についての訓練と防災訓練とを有機的に連携させるよう配慮するものとする。

第3章 武力攻撃事態等への対処

第1節 府対策本部等への対応

- 武力攻撃事態等への対処に関する基本的な方針（以下「対処基本方針」という。）が定められ、府対策本部が設置された場合には、府対策本部を中心とした国民保護措置の推進を図るものとする。
- 大阪府、市町村から対策本部の設置について連絡を受けたときは、警報の伝達に準じて、社内等に迅速にその旨を周知するものとする。

第2節 活動体制の確立

（阪急観光バス交通国民保護対策本部の設置）

- 府対策本部が設置された場合には、必要に応じて、阪急観光バス国民保護対策本部（以下「本社対策本部」という。）を設置する。
- 本社対策本部は、社内における国民保護措置などに関する調整、情報の収集、集約、連絡及び社内での共有、広報その他必要な総括業務を実施するものとする。
- 本社対策本部を設置した時は、府対策本部、市町村対策本部に連絡を行うものとする。
- この計画に定めるもののほか、本社対策本部の組織及び運営に関する事項については、別に定めるところによるものとする。

（緊急参集の実施）

- 国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、別に定めるところにより、必要に応じ、関係社員の緊急参集を行うものとする。

(情報連絡体制の確保)

(1)情報収集及び報告

- 本社対策本部は、管理する施設等の被災の状況、国民保護措置の実施状況、運行状況など武力攻撃事態等に関する情報を迅速に収集するものとし、これらの情報を集約し、必要に応じ、府対策本部、市町村対策本部に報告するものとする。
- 本社対策本部は、府対策本部、市町村対策本部より武力攻撃事態等の状況や国民保護措置を実施するに当たり必要となる安全に関する情報などについて収集を行うとともに、社内での共有を行うものとする。

(2)通信体制の確保

- 武力攻撃事態等が発生した場合には、直ちに、必要な通信手段の機能確認を行うとともに、連絡のために必要な通信手段を確保するものとする。
- 国民保護措置の実施に必要な通信手段を確保するため、支障が生じた情報通信施設の応急復旧のため必要な措置を講ずるものとする。また、直ちに府対策本部、市町村対策本部に支障の状況を連絡するものとする。
- 武力攻撃災害により国民保護措置の実施に必要な通信手段が被害を受けた場合や停電の場合等においては、社員等の安全の確保に充分配慮した上で、速やかに応急の復旧を行うとともに、必要に応じ、バックアップ体制を確保するものとする。

第3節 安全の確保

- 国民保護措置を実施するに当たっては、その内容に応じ、府対策本部、市町村対策本部から武力攻撃の状況その他必要な安全に関する情報の提供を受けるほか、緊急時の連絡体制及び応援体制の確立等の支援を受けるものとし、これらを活用し、当社社員のほか、当社の実施する国民保護措置に従事する者に危険が及ぶことのないよう、安全の確保に十分に配慮するものとする。
- 国民保護措置を実施するに当たって、国民保護法第158条第3項に基づく特殊標章及び身分証明書を使用する場合には、府知事の許可に基づき適切に使用するものとする。

第4節 関係機関との連携

- 府対策本部、市町村対策本部、指定（地方）公共機関などの関係機関と緊密に連携し、的確な国民保護措置の実施に努めるものとする。

第5節 旅客等への情報提供

- 運行状況等の情報を、当社ホームページ等を活用して、旅客等に対し適時かつ適切に提供するよう努めるものとする。

第6節 警報の伝達

- 府知事より警報の通知を受けた場合には、別に定めるところにより、社内に

おける迅速かつ確実な伝達を行うとともに、施設利用者や旅客への伝達に努めるものとする。

第7節 施設の適切な管理及び安全確保

- 自ら管理する施設について、社員等の安全の確保に十分配慮の上、巡回の強化など安全確保のための措置を講ずるよう努めるものとする。
- 自ら管理する施設等について、施設利用者や旅客の誘導が必要となった場合には、的確かつ迅速な判断により自然災害や事故への対応に準じて、これらの者の適切な誘導に努めるものとする。

第8節 運送の確保

(避難住民の運送)

- 府知事から避難の指示の通知を受けた場合には、別に定めるところにより、社内における迅速かつ確実な伝達を行うものとする。
- 府知事により避難の指示が行われる場合には、府対策本部、市町村対策本部と緊密に連絡を行い、必要に応じて、府知事又は市町村長より避難住民の運送の求めが行われることに備え、輸送力の確保など避難住民の運送の実施に必要な体制を整えるものとする。
- 市町村長より避難実施要領の通知があった場合には、社内における共有を行うほか、その内容に応じ、必要な体制の確保に努めるものとする。
- 府知事又は市町村長より避難住民の運送の求めがあった場合には、資機材の故障等により当該運送を行うことができない場合など正当な理由がない限り、これらの運送を的確かつ迅速に行うものとする。
- 避難住民の運送の実施に当たっては、当該運送の求め等を行った者より提供される安全に関する情報等に基づき、当該運送に従事する者に危険が及ぶことのないよう安全の確保に十分配慮するものとする。また、気象条件等の運行環境によっては、現場で運送を実施する責任者が判断して安全確保のため必要な措置を講ずるものとする。

(運送の維持)

- 運送に必要な施設の状況確認、旅客施設における案内放送、旅客誘導等による秩序の維持等、武力攻撃事態等において旅客を適切に運送するために必要な措置を講ずるものとする。
- 運行に障害が生じた場合には、必要に応じて、府知事、市町村長など関係機関に当該障害について連絡を行うとともに、それら関係機関の協力を得つつ、他の運送事業者である指定（地方）公共機関等と連携し、代替輸送の確保に努めるものとする。

第9節 避難・救援に関する支援

- 自ら管理する施設であって、あらかじめ府知事より避難施設として指定されたものにおいて避難住民の受入れを行うこととなった場合には、当該避難施設の開設・管理運営のために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

第10節 安否情報の収集

- 市町村長等が行う安否情報の収集が円滑に実施できるよう、業務の範囲内で、照会に応じて安否情報の提供を行うなど、市町村長等の行う安否情報の収集に協力するよう努めるものとする。
- 市町村長等の行う安否情報の収集に協力する場合には、原則として、安否情報の対象となる避難住民及び武力攻撃災害により死亡し、又は負傷した者の現に所在する市町村長等に安否情報を提供するものとし、当該者が住所を有する市町村長等が判明している場合には、併せて市町村長等に対し安否情報の提供を行うよう努めるものとする。

第11節 応急の復旧

- 武力攻撃災害が発生した場合、管理する施設及び設備に関するもの並びにその業務として行う国民保護措置に関するものについて、社員等の安全の確保に配慮した上で、速やかに施設及び設備の緊急点検を実施し、これらの被害の状況等を把握するとともに、迅速に応急の復旧のための措置を実施するよう努めるものとする。
- 応急の復旧に当たっては、被害の拡大防止及び被災者の生活確保を最優先に行うよう努めるものとする。
- 応急の復旧のために必要な措置を講ずるに当たって自らの要員、資機材等によっては的確かつ迅速な措置を講ずることができない場合には、必要に応じ、府知事に対し、それぞれ必要な人員や資機材の提供、技術的助言その他応急の復旧のため必要な措置に関し支援を求めるものとする。
- 本社対策本部は、必要に応じ、被災情報及び応急の復旧の実施状況を府知事に報告するものとする。

第4章 緊急処理事態への対処

第1節 活動体制の確立

(阪急観光バス緊急処理事態対策本部の設置)

- 大阪府に緊急処理事態対策本部（以下「府緊急処理事態対策本部」という。）が設置された場合には、必要に応じて、阪急観光バス緊急処理事態対策本部（以下「本社緊急処理事態対策本部」という。）を設置するものとする。
- 本社緊急処理事態対策本部は、社内における緊急対処保護措置などに関する調整、情報の収集、集約、連絡及び社内での共有、広報その他必要な業務の総括を実施するものとする。
- 本社緊急処理事態対策本部は、緊急処理事態の状況に応じ、その事務を処理するための体制を強化するものとする。
- 本社緊急処理事態対策本部を設置した時は、府緊急処理事態対策本部、市町村緊急処理事態対策本部にその旨を連絡するものとする。
- この計画に定めるもののほか、本社緊急処理事態対策本部の組織及び運営に関する事項については、別に定めるところによるものとする。

第2節 緊急対処保護措置の実施

- 緊急対処保護措置の実施体制並びに措置の内容及び実施方法については、この計画の第1章から第3章までの定めに基づいて行うこととする。

第5章 計画の適切な見直し

- 適時この計画の内容につき検討を加え、必要があると認めるときは、自主的にこれを変更するものとし、変更を行った際は、軽微な変更である場合を除き、府知事に報告するものとする。また、市町村長に通知するとともに、ホームページ等において公表を行うものとする。
- この計画を変更するため必要があると認めるときは、関係指定行政機関の長及び指定地方行政機関の長、地方公共団体の長並びに指定公共機関及び指定地方公共機関並びにその他の関係者に対し、資料又は情報の提供、意見の陳述その他必要な協力を求めるものとする。
- この計画の変更に当たっては、この計画の下で業務に従事する者等の意見を聴く機会を確保するほか広く関係者の意見を求めるよう努めるものとする。